



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

イスラエル：リブニ・カディマ前党首が国会議員を辞任

主席研究員 中島 勇

イスラエルでは、総選挙が予定の2013年から2012年に早まるとの報道が増加している。最新の予想では、選挙は今年の夏から秋頃との見方もある。

5月1日、カディマのリブニ前党首が国会議長と会談し、議員の辞表を提出した。リブニは国会議員は辞めるが政界には留まる意向を表明している。リブニは、3月の党首選挙でモファズ党首に大差で敗れていた。イスラエルのメディアは、カディマの議員らの中には、リブニが新党を創設した場合、合流を考えている政治家が多いとも報道している。リブニは、今のところ新党については発言していない。

ネタニヤフ首相の父親が死去

リクードは、最近の世論調査では、31議席を獲得すると予想されるなど支持率が増加している。ネタニヤフ首相は、早期選挙の方が有利と考えているとも報道されている。そのネタニヤフ首相の父親で強硬な大イスラエル主義者のベンジオン・ネタニヤフ（Benzion Netanyahu）がエルサレムで死亡した。享年102歳。ベンジオンは、イスラエル独立後、米国でイスラエル支援を取りつける活動を行っていた。そのためネタニヤフ首相は、米国で教育を受けている。ネタニヤフ首相については、父親の影響が強いといわれていた。中東和平関連では、父親を失望させたくない息子は、親父が活着している限り、パレスチナに対して柔軟な姿勢は示せないだろうとの推測もあった。

ネタニヤフ首相は、父親の死後、1週間は喪に服すようだ。パレスチナのアッバース大統領とファイヤード首相は、別々に、ネタニヤフ首相に対してお悔やみの書簡を送っている。喪があけた後、ネタニヤフ首相は早期選挙に向けた動きをする可能性が高い。もし父親が死去したことが息子に何らかの影響を与えたとすれば、中東和平に関する言動に変化が出るかもしれない。